

## 第8回 東日本大震災支援全国ネットワーク 常任世話団体及びチーム長合同会議 議事録

1. 開催年月日：2011年9月2日（金）
2. 開催場所：中央共同募金会 会議室
3. 出席者：総数9名（事務局を除く）

### ◇ 出席代表世話人（2名）

栗田暢之 NPO 法人 レスキューストックヤード  
田尻佳史 認定 NPO 法人 日本 NPO センター

### ◇ 出席常任世話団体（2名）

尾崎靖宏 日本生活協同組合連合会  
光永尚生 特定公益増進法人 財団法人 日本 YMCA 同盟  
瀬下浩史 社会福祉法人 中央共同募金会（兼 資金チーム）  
田島誠 NPO 法人 国際協力 NGO センター（兼 国際チーム）

### ◇ 出席チーム（3名）

池座剛 NPO 法人 自立生活支援センター・もやい（情報チーム）  
鈴木賀津彦 株式会社 東京新聞社（広報チーム）  
加藤一紀（ユースチーム）

### ◆ 欠席常任世話団体（6団体）

東京災害ボランティアネットワーク  
NPO 法人 シーズ・市民活動を支える制度をつくる会  
公益財団法人 日本財団  
公益社団法人 日本青年会議所  
日本赤十字社  
「広がれボランティアの輪」連絡会議  
NPO 法人 NPO 事業サポートセンター

#### 4. 議事

##### 【議題1】報告事項

###### 三県連携復興センター会議（仮称）への JCN の出席について

8月24日（水）に、せんだいみやぎ NPO センターで開かれた三県連携復興センター会議に出席した。出席者は、いわて連携復興センター、みやぎ連携復興センター、ふくしま被災者支援ネットワーク（絆ネット）、内閣官房震災ボランティア連携室、支援 P、日本 NPO センター、JCN、アクセンチュア。JCN は、600 団体が関わっているので地域の情報を流して、つながっていけるものはつながっていききたいという趣旨で出席。県域中間支援を行っている団体から取組状況、仮設住宅支援などについて話題提供があった。JCN からは県外避難者支援、企業との連携、RANS の運用について話題提供し、意見交換を行った。JCN からそれぞれ3県に入って支援してもよいのではないかと提案があった。福島はしっかり連絡がとれていなかったところはある。同じような名称でやっても組織構成、考え方、やり方は違う。福島の場合は同じような名称を持っているような団体が複数あり、情報提供を求めるのは難しい。JCN からどういう情報を提供できるのか、もう少し広い枠で参加いただくような会議を続けてもよいかもしれない。「連携復興センター」という名称の団体が独自に集まる機会がある。JCN での集まりとの差別化を考える必要がある。

##### 【議題2】検討事項

###### 事項1. 9.11 メッセージについて

現地で活動している団体数には、JCN の現地で活動している団体数も入れてほしい。県外避難者支援のこともあるので、全国の地域で取り組んでいることも伝えてはどうか。修正案は、常任世話団体・チーム長会議それぞれのメンバーリストで送付すること。

###### 事項2. 全体会議の開催について

(出席者 A) :

総会から半年、もう一回全員集合しましょう。これまでを振り返り、これからを考える会としたい。

(出席者 B) :

今後の支援のあり方について考える会にしたい。現場の課題をきちんと聞いた上で、智慧を交換する。

(出席者 C) :

今後のことを話し合うのであれば、意見を出しあって決めていくのか、事前につくって発表するのか。後者はちょっと時間が足りないように思う。事前に意見を聞いておく必要があるのでは。

(出席者 D) :

JCN これまでやってきたこと、なにをやるのかというところに集約してはどうか。

(出席者 E) :

臨時総会的なものとして位置づける。半年たったが、これからどうしますか？という問いかけを。会員がターゲットだが、クローズドにはしない。JCN の振り返り（会員団体の振り返りも含めるがメインではない）。

(出席者 F) :

現地から期待することはメニューに入れたほうがよい。発足当時はなかなか現場の声が聞けなかった。

(出席者 G) :

1) いままでやってきたこと、2) 報告・現地から求めること、3) これからどうするか、という大きな流れをつくってはどうか。

(出席者 H) :

発言したい方の発言の機会をつくっておけるとよい。事前に希望を出してもらうのもいいだろう。プログラムは事務局サイドで修正案を提示する。それぞれお役目をお願いさせていただく。

## 5. その他

次回の常任世話団体会は、9月15日に開催する。